



正しい歴史の 継承が平和への道

高暮自治振興区 草谷 末廣さん

強制連行という非人道的な手段で、多くの犠牲が払われたという歴史が再び繰り返されないためにも、「高暮ダムの歴史」を知ってほしいと思います。

強制連行という事実は負の歴史遺産です。負の歴史を日朝友好の平和の歴史に転換するには、正しい歴史を次世代へ語り継ぐことです。原爆の悲惨さがヒロシマで語り継がれるように、高暮では強制連行の事実を語り継がなければいけないと思い、毎年、高暮自治振興区では「平和の集い」を開催しています。



憤りを 人権・平和への エネルギーに

元高暮小学校教諭 黒田 明憲さん

私は「追悼碑」への落書きを見て、単なるいたずらではなく、人権・平和を願うものへの悪質な挑戦であると感じ、強い憤りをおぼえました。

この「追悼碑」は、太平洋戦争中に行われた朝鮮人強制連行・強制労働という史実を乗り越えて建立されたものです。碑に託された願いは、日朝友好の礎とし、ともに手を取り合って差別のない平和な社会を実現することです。特に地元高暮地区は、過去9年間、広島の日朝鮮人同盟の人々と一緒に「高暮平和の集い」を開催し、連帯の絆を固くされてきました。

私は今回の落書き事件への憤りを、人権・平和へのエネルギーに代え、より確かな歩みにすることを碑前に誓いました。



工事中のダム



スプレーで落書きされた追悼碑

許せない！追悼碑の落書き事件

過去の歴史から、人権の大切さを学ぶ

総務課行政係 ☎0824-7311123
生涯学習課社会教育係 ☎0824-7311188

この夏、高野町の「高暮ダム朝鮮人犠牲者追悼碑」に、スプレーで「ねつぞうのれきし」「うそ」などと落書きをされる事件が発生しました。この碑は、第2次大戦中の強制連行により、高暮ダム建設で犠牲になった朝鮮人の方々を追悼するために、三次地方史研究会などが、ダムえん堤近くに設置されたものです。誰が、何のために、この落書きをしたのか分かりませんが、単なるいたずらでは許されない行為です。庄原市で起きた過去の歴史に学び、人権が大切にされる明るい社会を築きましょう。

高暮ダムの強制連行

高暮ダムの建設工事が始まったのは、日中戦争の長期化が確実に進み、戦時体制の強化が叫ばれた昭和15年です。その頃から、日本政府は兵力や労働力を増やすため、植民地にした朝鮮や中国から多くの人を無理やり日本へ連行して、炭鉱やトンネル工事、ダム工事など危険の多い現場で働かせました。

「故郷で働いているところへ日本人がやってきて有無を言わず捕らえられ、船に乗せられた」など、高暮ダムへ強制連行された朝鮮人は、約2,000人といわれています。強制連行された朝鮮人は「集団」と呼ばれ、極めて劣悪な条件で労働を強制されました。

工事は、資材不足と雪との闘いの中、人力に頼る作業で、トロッコ押しなどの重労働や、落盤事故が起こりやすい隧道工事などの危険

な工事には多くの朝鮮人労働者が従事させられました。特に事故が多かったのはダムから発電所へ水を送る隧道工事です。ダイナマイトと人の力だけで掘りますが、一番先の最も危険な場所はずべて朝鮮人にやらせました。落盤落石でかなりの人が亡くなっています。

当時、ダム工事現場の近くで暮らしていた草谷影正さん（高野町新市）は、「集団の人（強制連行者）はすぐに分かります。同じ服を着て、監視人が常に見張っていますから。過酷な労働から逃亡する人も多く、わたしは実際に現場を

見たことはありませんが、逃亡が見つかれば、見せしめにひどい制裁をしているという話は聞いていました。一度だけ、逃亡者がわたしのところへ来たことがあります。言葉は分かりませんが、大体のところは察しがつくので、灰の上に地図を描いて、逃げ道を教えました。地下足袋がボロボロだったので、地下足袋のいいのと餅を焼いて渡しましたが、その人がきちんと逃げられたのか今でも気になります」と証言をします。

（参考）強制連行と高暮ダム…ふるさと村高暮／朝鮮人強制労働の記録…三次地方史研究会